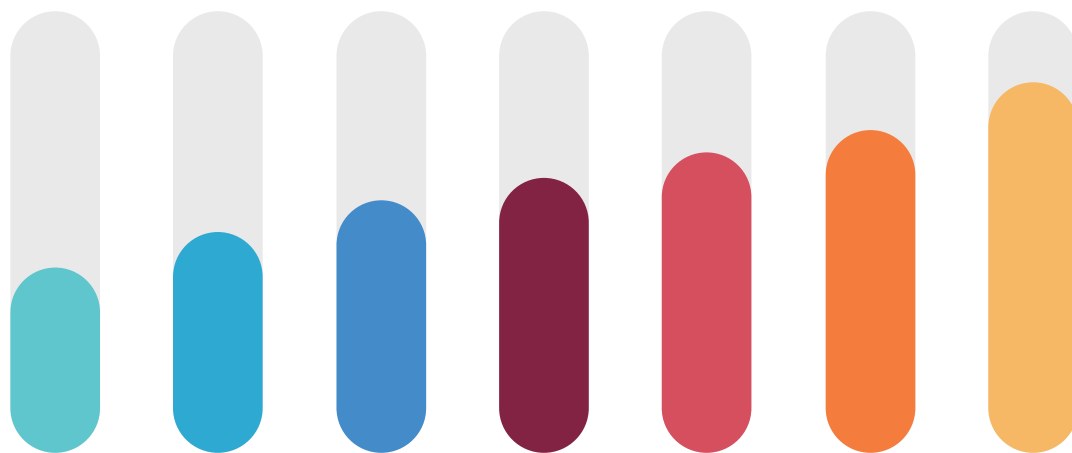


Kyushu University

VISION 2030

PROGRESS REPORT 2024



目次

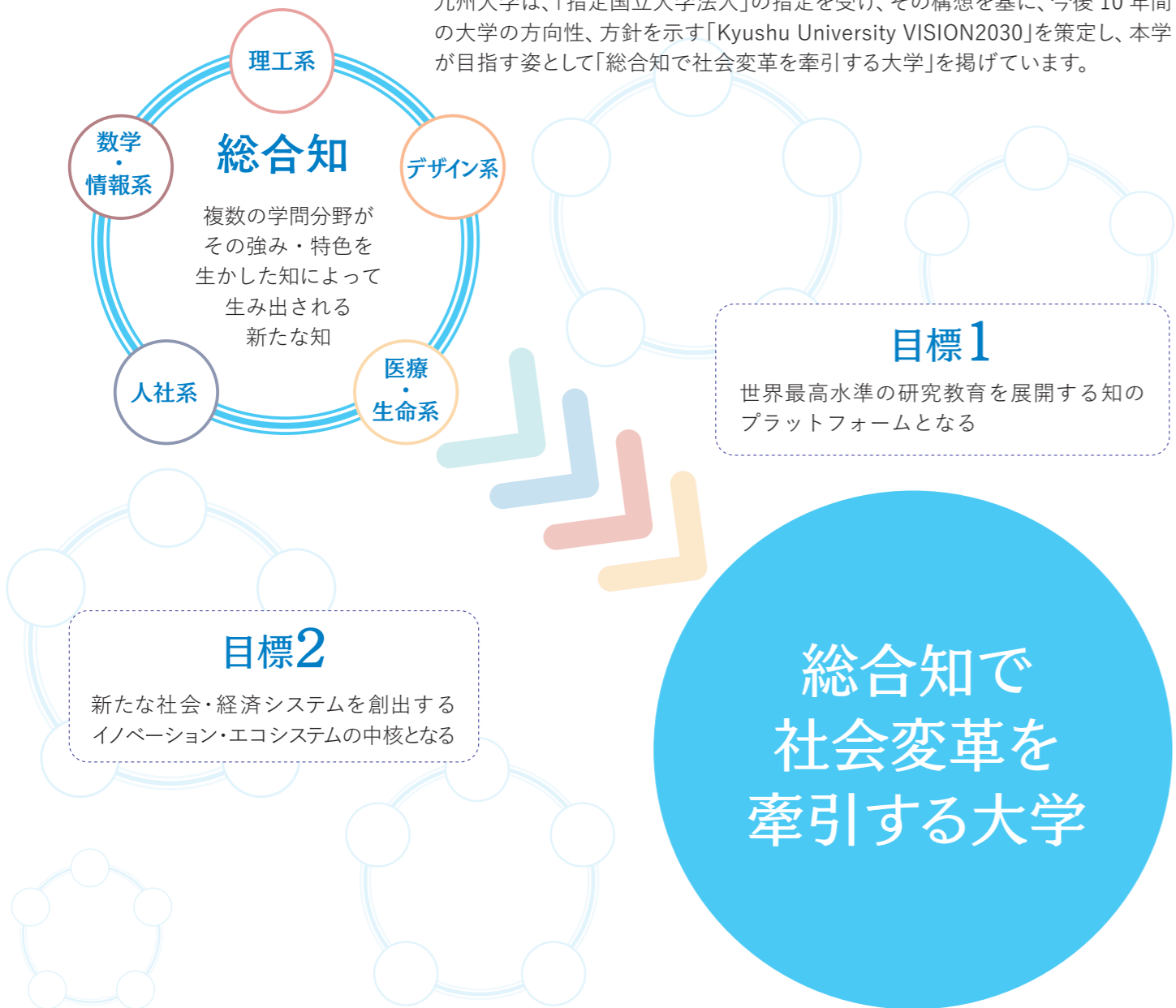
FAST FACTS	1
Kyushu University VISION 2030	2
九州大学指定国立大学法人構想	3
各種ファクトデータ	
教育	4
○ 留学生受入人数	
○ 海外留学者数	
○ 地域別留学生受入人数	
○ 地域別海外留学者数	
研究	6
○ 若手研究者比率	
○ 女性研究者比率	
○ 外国人研究者比率	
○ 外国人等教員数	
○ 国際共著論文数	
○ TOP10% ジャーナル論文数	
社会との連携	10
○ 共同研究費受入額	
○ 研究成果発ベンチャー起業数	
ガバナンスの強化	10
○ 執行部に占める女性・外国人比率	
財務基盤の強化	11
○ 病院収益を除く経常収益に占める外部資金等収益比率	
○ 九大基金受入額	
国際協働	12
○ 「戦略的パートナーシップ」の新局面 3大学連携センター設置	
○ 日本初 一地域内の国立大学による研究連携プラットフォーム KOOU の国際展開	
○ 米国・ロチェスター工科大学への学生派遣を実施	
○ 地域別協定締結数	





Kyushu University VISION 2030

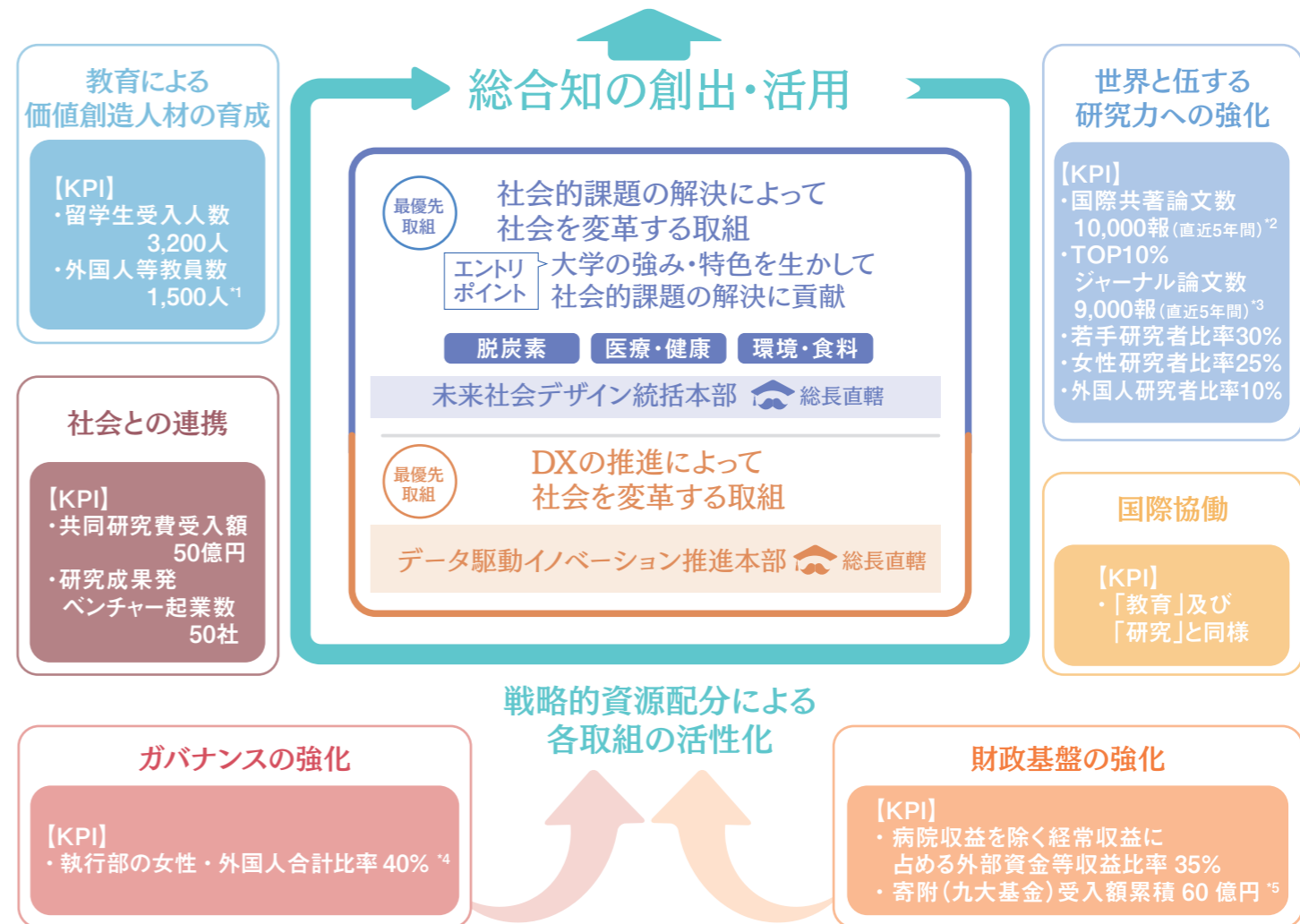
九州大学は、「指定国立大学法人」の指定を受け、その構想を基に、今後10年間の大学の方向性、方針を示す「Kyushu University VISION2030」を策定し、本学が目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げています。



九州大学指定国立大学法人構想

総合知で社会変革を牽引する大学へ

- 目標1** 世界最高水準の研究教育を展開する知のプラットフォームとなる
- 目標2** 新たな社会・経済システムを創出するイノベーション・エコシステムの中核となる

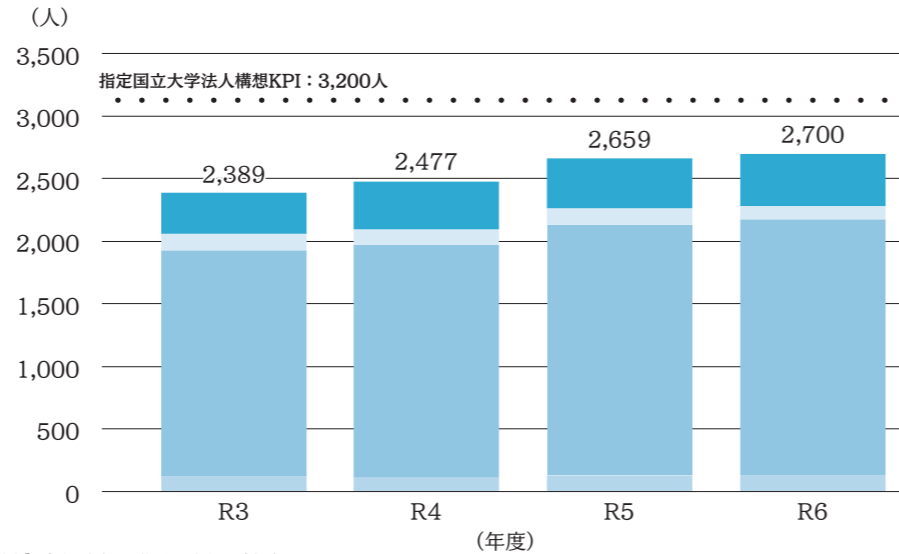


(*1) 外国籍の教員、外国の大学で学位を取得した日本人教員、外国で通算1年以上の研究教育歴を有する日本人教員。(*2) データはElsevier社製「SciVal」より抽出。論文指標の抽出条件：文献タイプ=Articles and reviews、分野補正=無(*3) データはElsevier社製「SciVal」より抽出。論文指標の抽出条件：文献タイプ=Articles and reviews、ジャーナル評価指標=CiteScore Percentile(*4) 執行部は、総長、理事、副学長、副理事によって構成>(*5) 九大基金設立(H23年度)以降の累積。

留学生受入人数

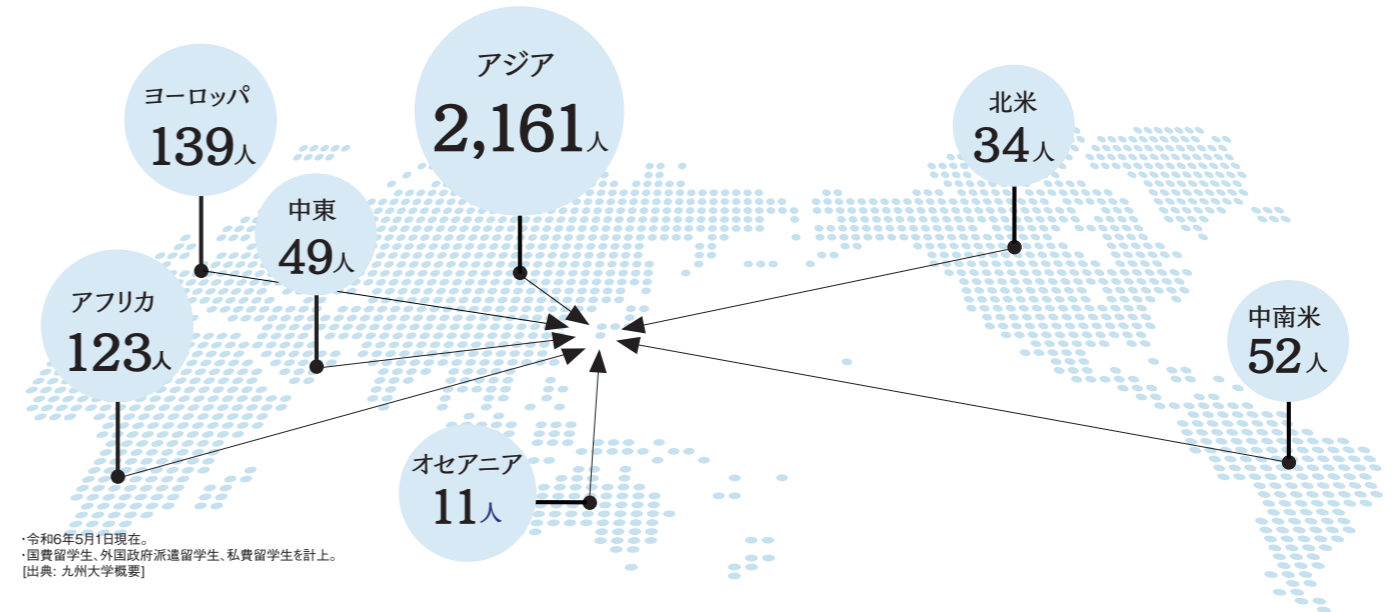
- 国費留学生
- 外国政府派遣留学生
- 私費留学生
- その他

R6年度
2,700人



・国費留学生: 日本政府から奨学金を支給されている留学生。
 ・外国政府派遣留学生: 諸外国政府の経費負担により派遣されている留学生(中国政府「国家建設高水準大学公派研究生項目」含む)。
 ・私費留学生: 上記以外、自費による留学生(JICA関連事業等留学生含む)。
 ・その他: 在留資格が短期滞在ビザ、家族滞在ビザ等「留学ビザ以外」の者や、入学してから一度も渡日せずオンライン授業等を受講している者で今後も渡日する予定がない者等を含む。
 [出典: 九州大学概要、国際部保有データ]

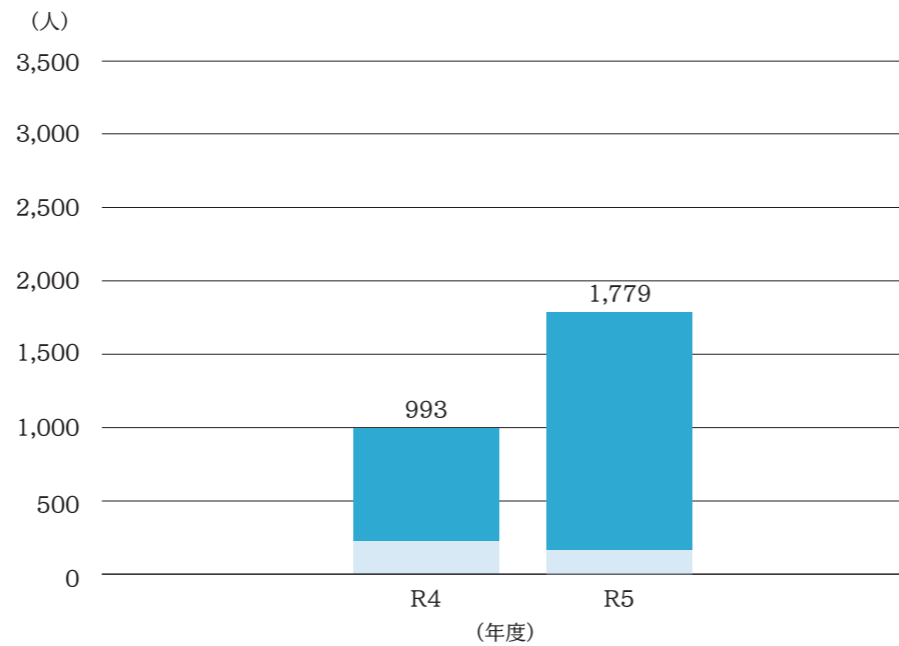
地域別留学生受入人数



海外留学者数

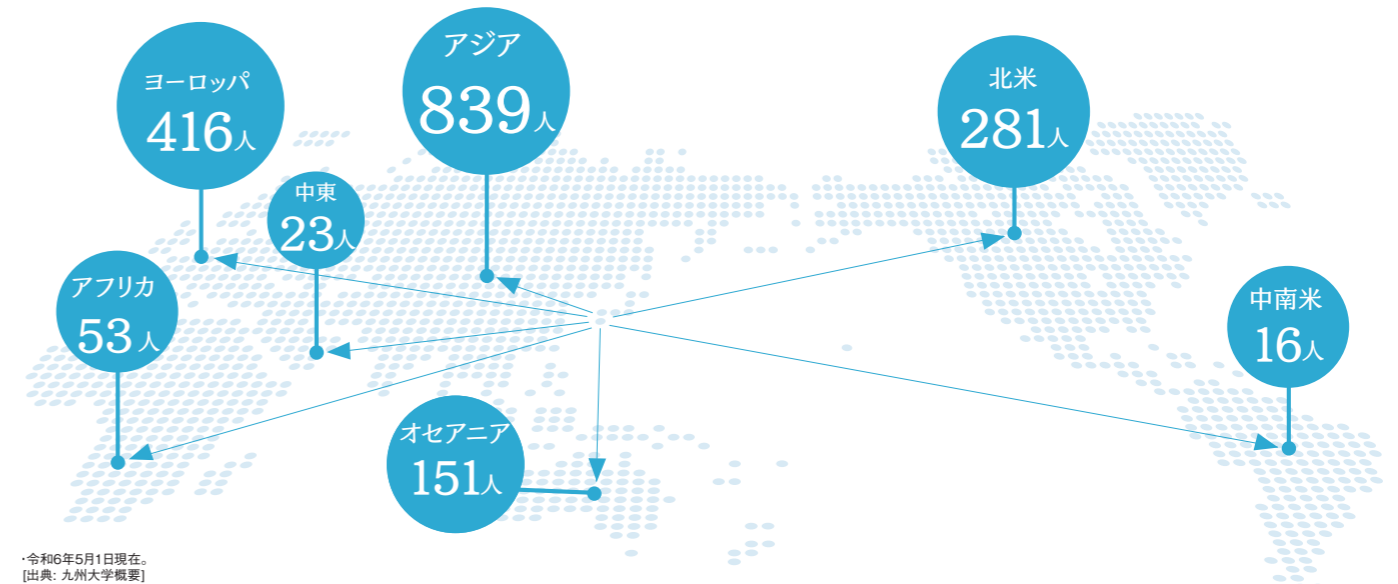
- 現地参加者
- 海外大学プログラム等へのオンライン参加者

R5年度
1,779人



・外国人留学生を含む総数。
 [出典: 九州大学概要]

地域別海外留学者数

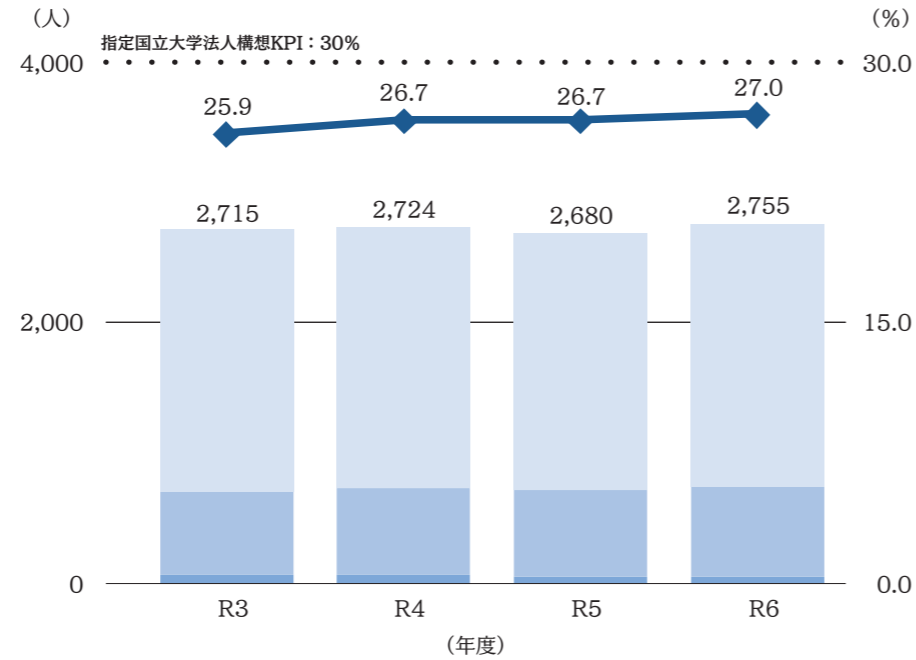


若手研究者比率

- 40歳～60歳
- 30歳～39歳
- 25歳～29歳
- 39歳以下比率

R6年度
27.0%

・教員と学術研究員(有期契約職員)を含む。
・年度末(3月31日時点)の年齢で計上。
[出典: 人事部保有データ(各年度5月1日現在)]

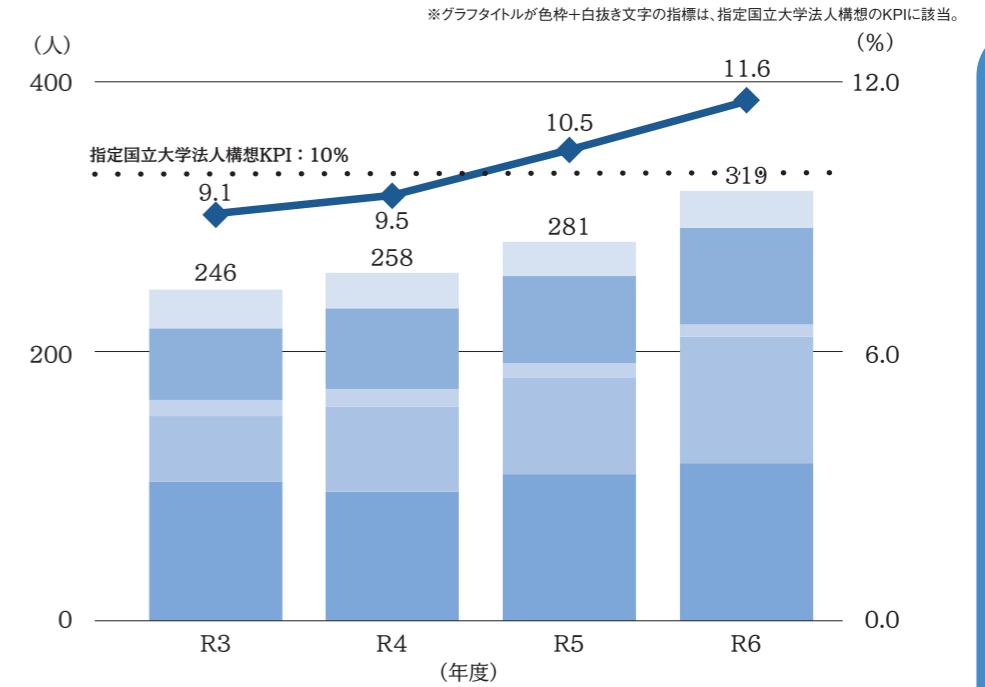


外国人研究者比率

- 教授
- 准教授
- 講師
- 助教
- 学術研究員
- 全教員に対する割合

R6年度
11.6%

・学術研究員は、有期契約職員を計上。
[出典: 人事部保有データ(各年度5月1日現在)]

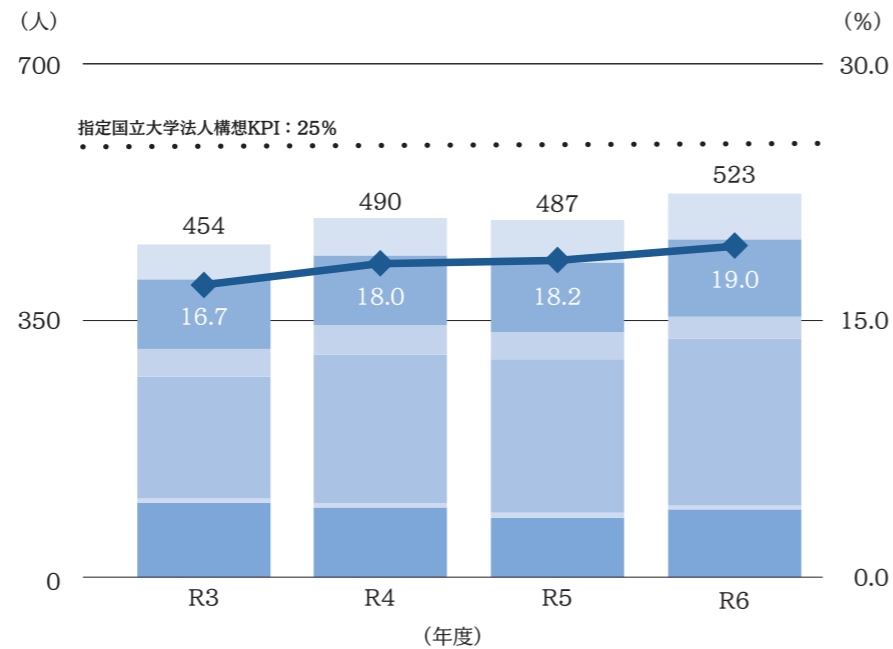


女性研究者比率

- 教授
- 准教授
- 講師
- 助教
- 准助教
- 学術研究員
- 全教員に対する割合

R6年度
19.0%

・学術研究員は、有期契約職員を計上。
・准助教は、教務助手を含む。
[出典: 人事部保有データ(各年度5月1日現在)]

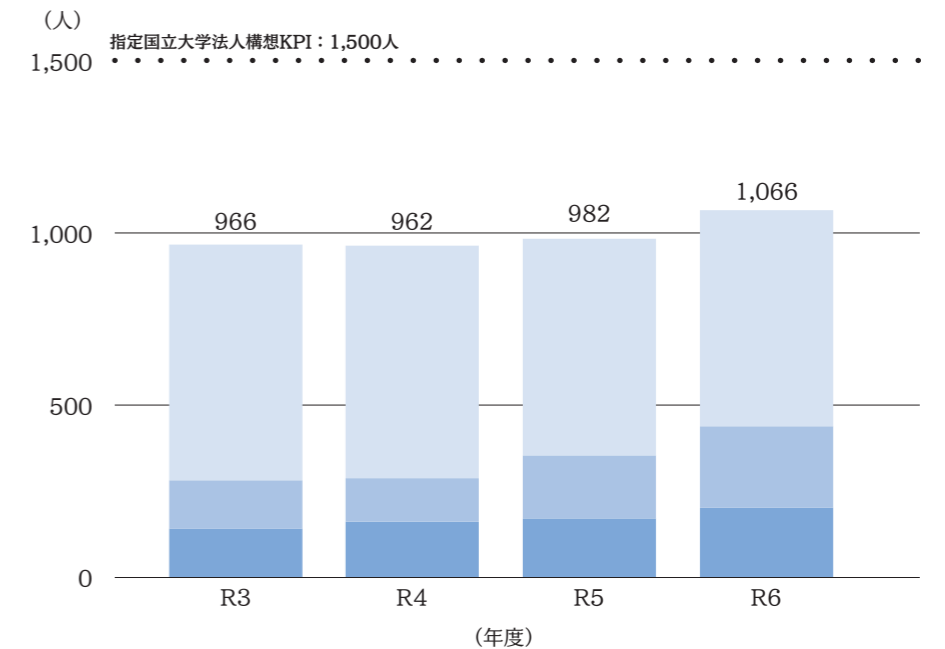


外国人等教員数

- 外国で通算1年以上の教育研究歴のある日本人教員
- 外国の大学で学位を取得した日本人教員
- 外国籍を有する教員

R6年度
1,066人

[出典: 独立行政法人日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業 フォローアップ結果」、文部科学省「学校基本調査」「学生教職員等状況票」]



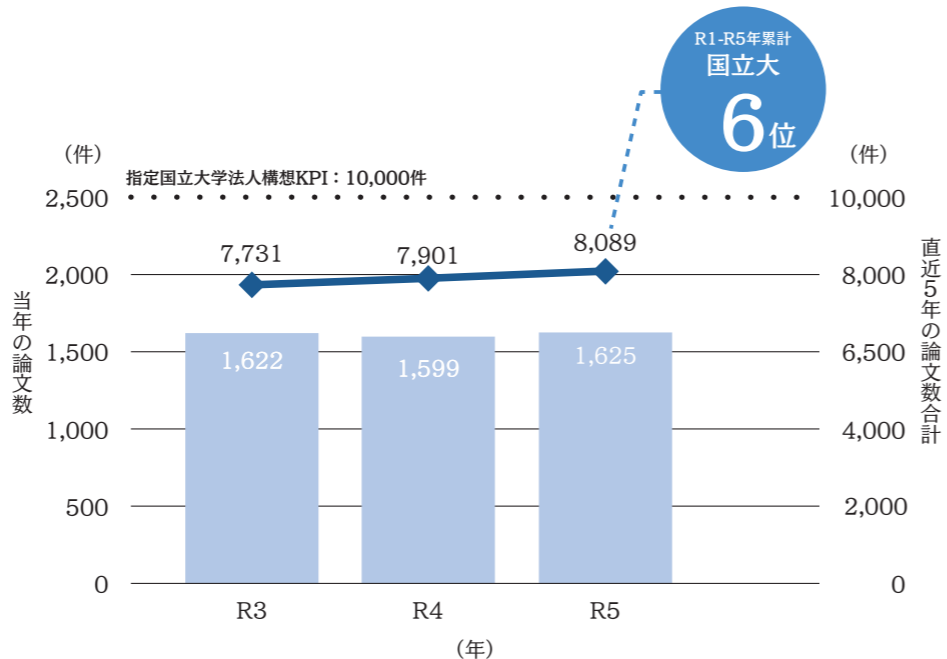
※グラフタイトルが色枠+白抜き文字の指標は、指定国立大学法人構想のKPIに該当。

国際共著論文数

■ 当年の論文数
◆ 直近5年の論文数合計

R1~R5年累計
8,089件

・論文指標の抽出条件: 文献タイプ: Articles and reviews, 分野補正: 無
[出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)]

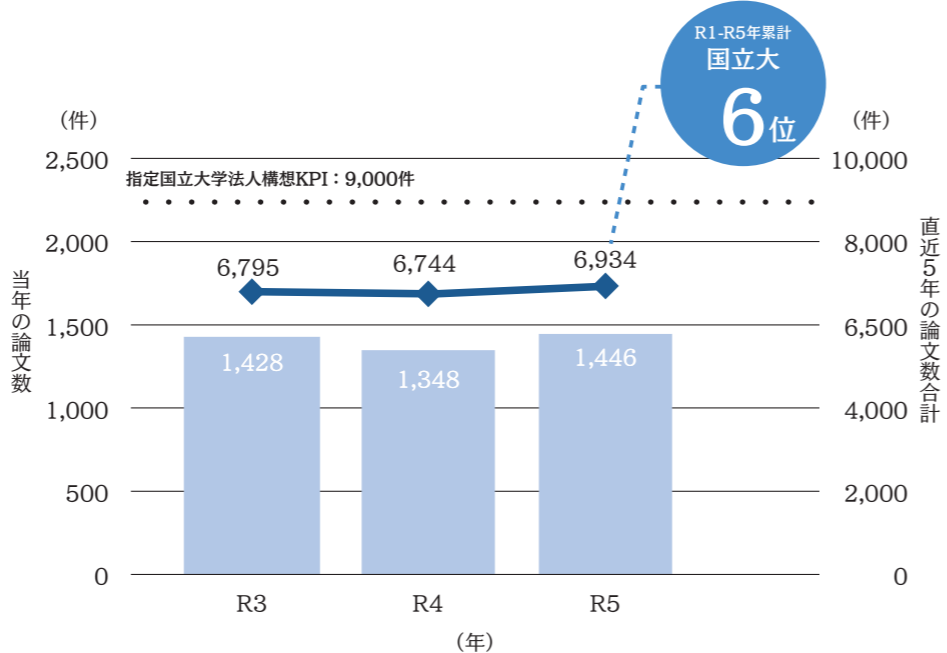


TOP10%ジャーナル論文数

■ 当年のTOP10%ジャーナル論文数
◆ 直近5年のTOP10%ジャーナル論文数合計

R1~R5年累計
6,934件

[出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)]



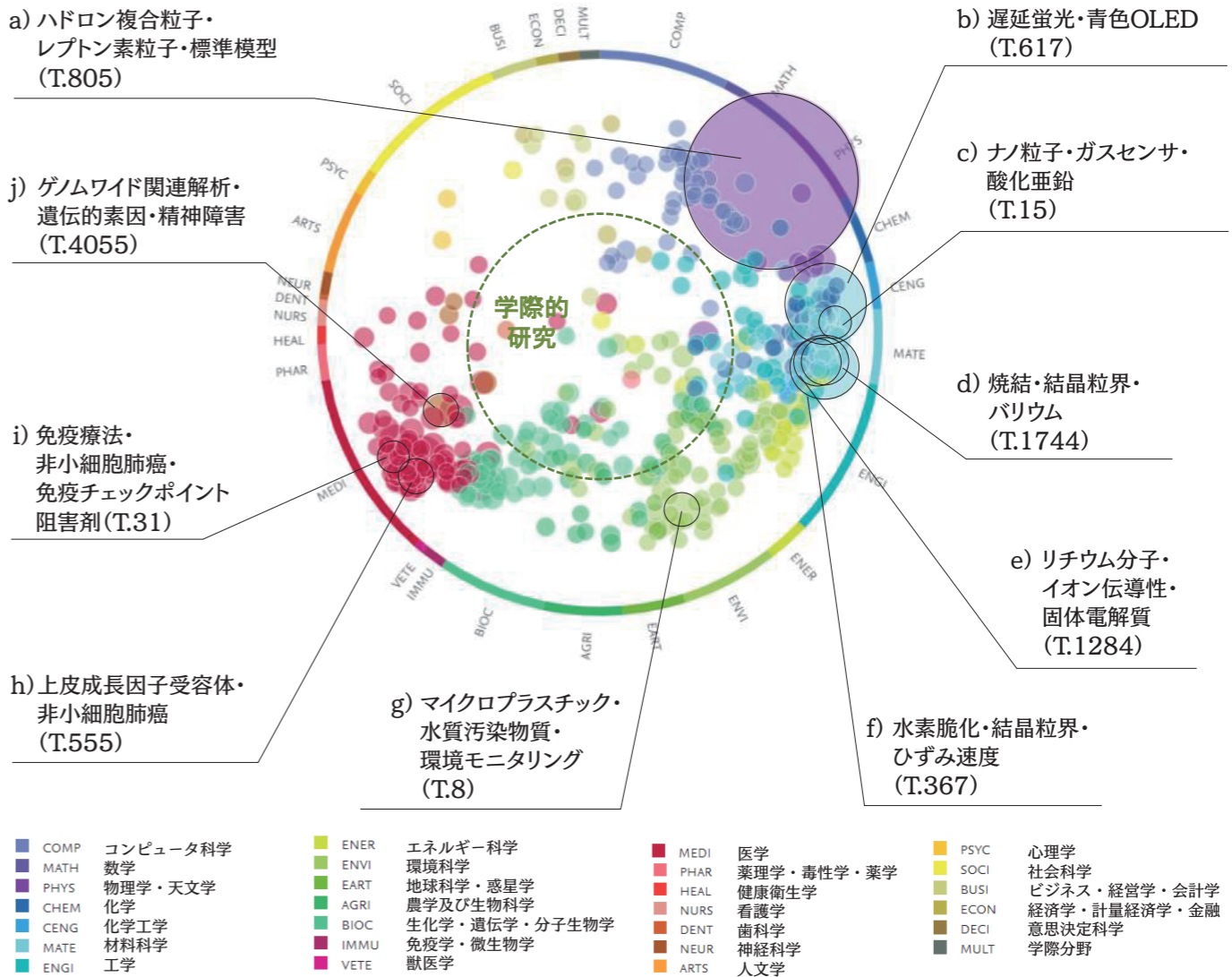
トピックプロミネンス (注目度)

— 論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析 —

プロミネンス上位1%のトピック(2019-2023)

※各トピックの末尾に示す「T.」から始まる数字は、Scopusにてデータベースの文献引用関係に基づいて分類・定義された固有の「トピックID」を表す。

a) ~ j) はプロミネンス上位1%のトピックの内、論文数の多い上位10トピック。これらのトピックは本学の論文数も多く、本学の中でも活発な研究分野と言える。



◆トピックのプロミネンスについて◆Scopusの文献を引用リンクに基づいて約94,000の外トピックおよび約1,500のトピッククラスタにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けされている。Prominenceは、直近の文献の被引用数、Scopus表示回数、CiteScoreを見ることによってトピックの現在の勢い、注目度を示す。◆見方◆外側の円周: Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。・小さい円: 各トピック。・小さい円の大きさ: 各トピックを構成する論文の数を表す。・小さい円の色: トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したものを。・小さい円の位置: トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

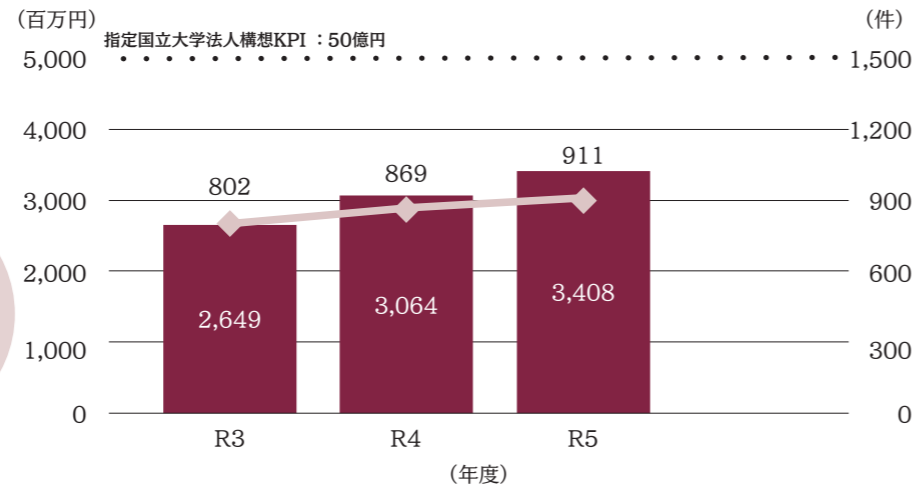
◆論文指標の抽出条件◆文献タイプ: Articles and reviews, 自己引用: 含む
[出典: Elsevier社「SciVal Topic Prominence」(2024年9月現在)、Elsevier社Webサイト(https://www.elsevier.com/ja-jp/products/scival/overview/topics)]

共同研究費受入額

金額
件数

R5年度
約**34**億円

・百万円未満は四捨五入。
[出典:九州大学概要]

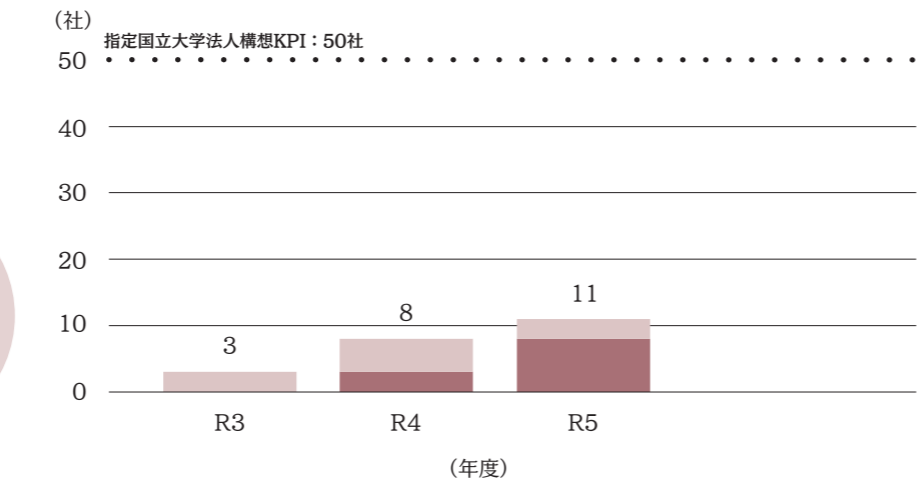


研究成果発ベンチャー起業数

当年度起業数
前年度までの累積起業数

R3~5年度
累計
11社

・本学の研究成果(特許等)を活用したベンチャー企業
[出典:研究・産学官連携推進部保有データ]

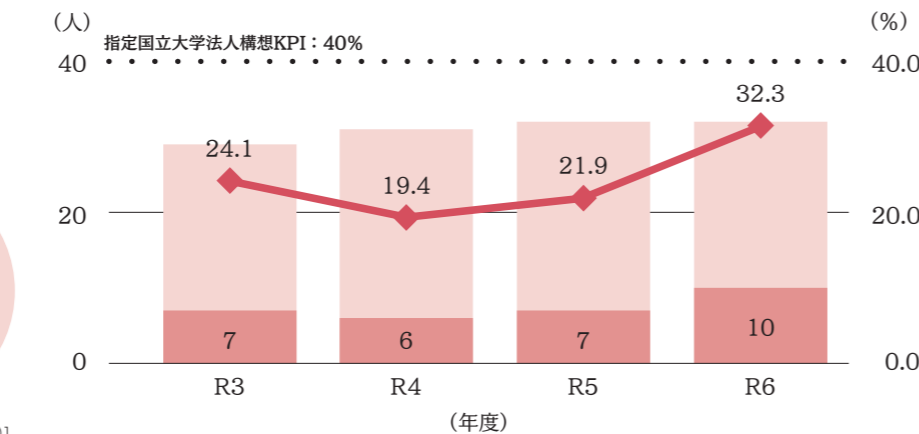


執行部に占める女性・外国人比率

執行部(合計)
女性・外国人(内数)
執行部に占める女性・外国人の割合

R6年度
32.3%

[出典:九州大学概要(R3年度)、人事部保有データ 10月1日現在(R4-6年度)]

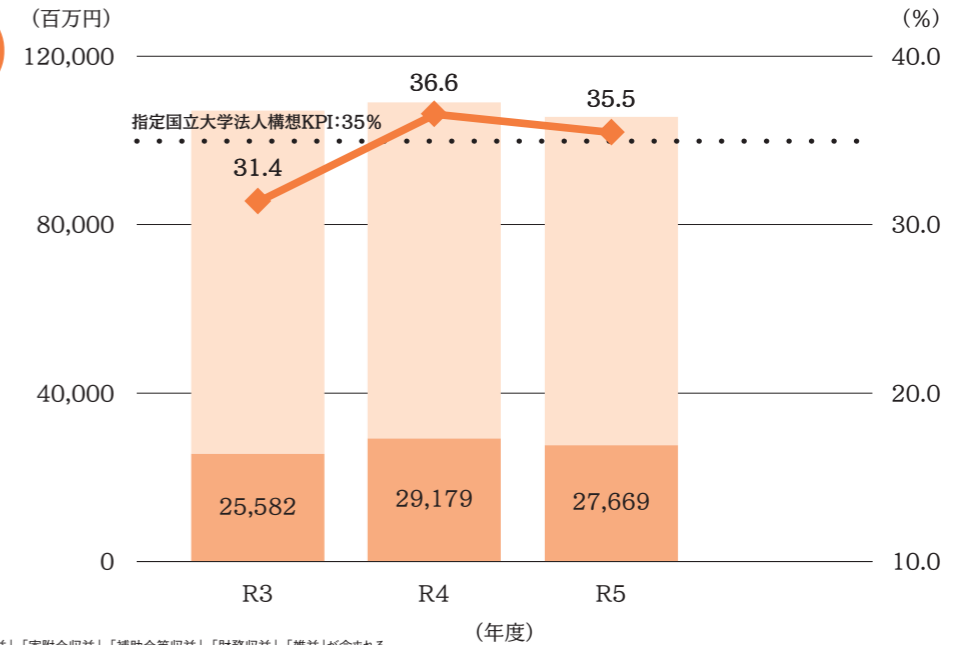


病院収益を除く経常収益に占める外部資金等収益比率

経常収益(附属病院収益を除く)
外部資金等の収益
外部資金等収益比率(附属病院収益を除く)

R5年度
35.5%

・外部資金の収益には「受託研究収益」、「共同研究収益」、「受託事業等収益」、「寄附金収益」、「補助金等収益」、「財務収益」、「雑益」が含まれる。
・百万円未満は切り捨て。
[出典:財務部保有データ]

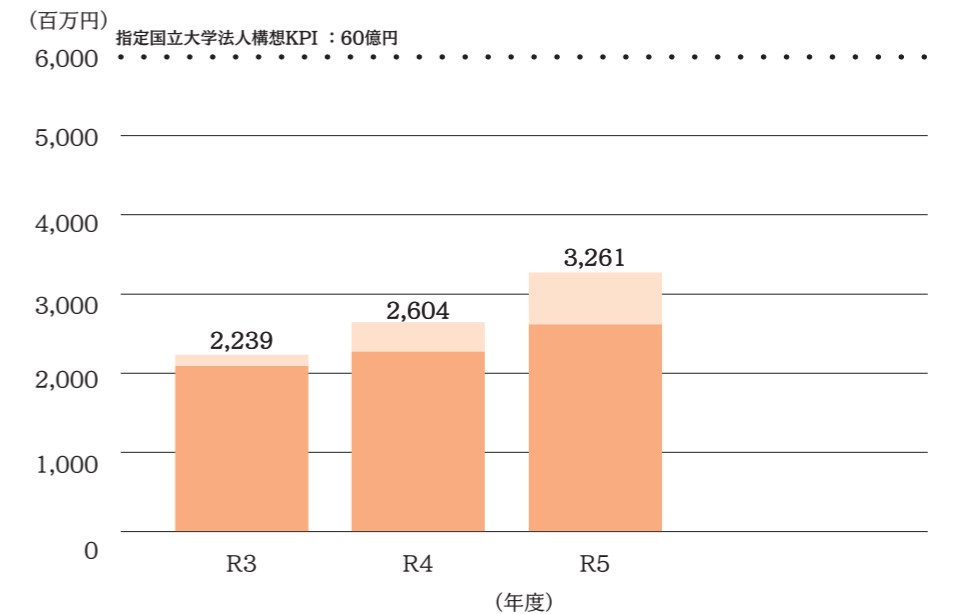


九大基金受入額

当年度受入額
前年度までの累積受入額

H23~R5年度
累計
約**32**億円

・累積受入額は、九大基金設立(H23年度)以降の累積である。
・百万円未満は切り捨て。
[出典:総務部保有データ]



※グラフタイトルが色枠+白抜き文字の指標は、指定国立大学法人構想のKPIに該当。



戦略的パートナーシップ
特設ページ

「戦略的パートナーシップ」の 新局面 3大学連携センター設置

2024年2月19日、国立台湾大学において、国立台湾大学 (NTU)、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 (UIUC)、九州大学3大学の学長(総長)を代表とする訪問団が会し、「3大学連携センター」設置の覚書(MoU)署名式を実施した。

UIUCとは2019年から、NTUは2023年から、九州大学の戦略的パートナーとして連携実績がある。また、UIUCとNTUも戦略的パートナーシップ関係があったことから、これらの枠組みを発展させ、3大学での協働が実現した。この3大学連携センターは、全大学の相互協力のもと、教育・研究における交流を促進する活動を担う。

2024年11月に石橋総長のUIUC出張の折、3大学連携センターによる「Future Metropolis Workshop」を対面で開催し、3大学の研究者が研究発表ならびに交流を実施した。今後、同様の機会設定などを通じて交流促進・拡大を図り、VISION 2030に掲げる国際頭脳循環のハブの役目を果たす。



MoU 署名式の様子

日本初

一地域内の全国立大学による 研究推進プラットフォーム KOOUの国際展開

2024年4月、九州・沖縄地区11の国立大学法人による「九州・沖縄オープンユニバーシティ(KOOU)」と台湾の大学群学術プラットフォーム「The University Academic Alliance in Taiwan(UAAT)」が、国際的な連携協力に関する覚書を締結した。

KOOUは2023年3月に発足。加盟国立大学法人間での研究力向上を中心とした連携協力を推進していく枠組みであり、日本国内において研究力向上を目的として地域の国立大学が連携したプラットフォームを形成した初の事例である。九州大学が事務局を担い、中心的に運営を行っている。

UAATとは、6つの連携分野(半導体、生命科学、工学、自然科学、社会科学・人文科学、マンダリン)を定め、各分野における連携プロジェクトによる研究者マッチングが加速している。KOOU加盟11大学のうち、九州大学が採択プロジェクト数では最多。

九州大学がイニシアティブをとり、日本においてフロントランナー的枠組みであるKOOUが、九州・沖縄の国立大学群の強み、立地する地域性を活かし、国際的な研究・教育、人材育成に波及させていく。



締結式の様子

米国・ロチェスター工科大学への学生派遣を実施

2024年8月10日から23日にかけて、日米大学パートナーシップ UPWARDS for the Future(以下UPWARDS)の取組の一環で、本学工学部電気情報工学科から12名、大学院システム情報科学府から5名の学生が米国ニューヨーク州のロチェスター工科大学(Rochester Institute of Technology)で2週間にわたる半導体に関する教育プログラムに参加した。

UPWARDSは2023年に発足した本学を含む日米11大学によるコンソーシアムで、日米企業の寄附金に基づき、未来の半導体人材の育成等に取り組んでいる。

今回のプログラムに参加した学生達は半導体の基礎から応用まで学び、クリーンルームで実際に太陽光発電素子を作製するなど、充実した時間を過ごした。

ロチェスター工科大学でのプログラム終了後、帰国前の数日間を利用し、同州アルバニーのナノテク・コンプ

レックスにある企業のオフィスを訪ねた。米国で活躍する日本人エンジニアと触れ合うことで、学生の将来のキャリアについて考える機会となった。

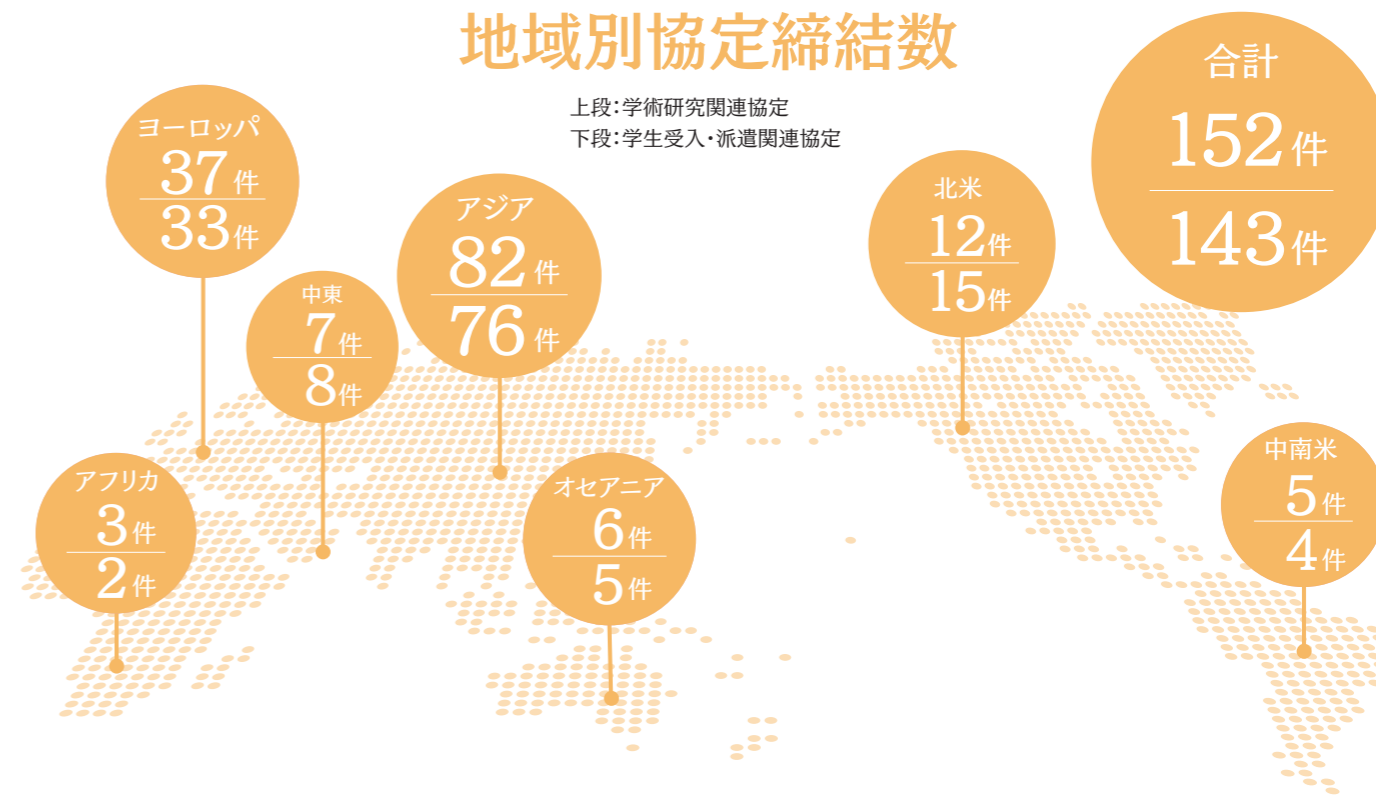
本学は、今後もUPWARDSの参画大学と積極的に連携し、優秀な半導体人材の育成に取り組んでいく。

※UPWARDS:University Partnership for Workforce Advancement and Research & Development in Semiconductorsの略。



地域別協定締結数

上段:学術研究関連協定
下段:学生受入・派遣関連協定



国際協働



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

国立大学法人九州大学
企画部企画課分析係・IR室
〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2145
<https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/>

